令和元年度第3回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録

日 時 令和元年11月14日(木) 13:30～14:40

場 所 事務局第1会議室

出席者 山口学長、伊藤理事、重原理事、平林理事、秋山理事、
内海委員、小川委員、奥野委員、小安委員、佐々木委員、利根委員、平本委員

陪席者 齋藤監事、中林副学長、井口副学長、堀田副学長、川又副学長、
井口人文社会科学部研究科長、市橋教養学部長、柳澤経済学部長、薄井教育学部長、
坂井理工学研究科長、長澤理学部長、黒川工学部長

令和元年度第2回議事要録の確認について

令和元年度第2回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録(案)の確認が行われ、了承された。

各事項における意見等は次のとおり(学外委員、 学内委員等)

経営協議会委員からの意見への対応状況について

伊藤理事から、資料2に基づき、経営協議会委員からの意見への対応状況について説明があった。

報告事項

1 埼玉大学研究マップについて

伊藤理事から、机上配付資料に基づき、創立70周年記念出版として作成した「埼玉大学研究マップ」について報告があった。

主に産学連携を目的として、理化学研究所でも同じようなものを作ろうとしているところである。分野別に作成されており、非常にわかりやすい。

世間に対して、研究者が何をやっているかアピールする良い材料であり、素晴らしいと思う。

冊子としても作成しているが、本学ホームページにも掲載しており、電子的にも閲覧できるようにしている。今後の検討課題であるが、この研究マップを英訳して、海外からの留学生向けに発信することも考えたい。

何か物事が起こったときに、どの教員に聞けば良いかわからなかったことがあるため、非常に役に立つと思う。

2 令和元年度大型外部資金獲得状況及び令和2年度科研費応募状況等について

伊藤理事から、資料3に基づき、令和元年度の受託・共同研究費及び産学連携関係補助金等の大型予算獲得状況並びに科研費の採択状況等、令和2年度の科研費応募（新規）状況について報告があった。

科研費採択状況において、若手研究への応募数・採択数が少ないように見受けられるが、これは埼玉大学の年齢構成が反映されているのか。それとも、若手研究者が若手研究ではなく、上位の種目に挑戦されているのか。

若手研究者においても積極的に応募してもらっているが、中堅以上の研究者においても積極的な応募があり、採択もされている。応募・採択の傾向は一律ではないが、若手研究者向けの説明会を開催し、力を入れて取り組んでいるところである。

年齢別の科研費採択率を見ると、本学は若手研究者の方が高い傾向にある。任期付きの助教など、様々な若手研究者がいるが、活躍している若手研究者については、若手研究ではなく、上位の種目に挑戦している者が多い。

本学の研究業績の向上に資することを目的として、研究に重点を置く教員を選定し、さらに成果を促すための研究強化教員制度について、以前報告したところであるが、各部局において選定が行われ、最終的には38人の教員が研究強化教員として承認された。この制度により、更なる研究成果の向上を促していきたい。

3 埼玉大学基金の再構築について

伊藤理事から、資料4-1及び4-2に基づき、基金の特定重点事業であった「インターナショナルレジデンス新設事業」の終了に伴い、従来の「埼玉大学修学サポート基金」に加え、大学の機能強化支援及び学生への奨励事業実施を目的とした「埼大みらい基金」、寄附者が奨学金の名称や対象学部等を設定する「冠奨学金基金」の3区分に再構築した旨の報告があった。

4 平成30事業年度における剰余金の繰越承認について

平林理事から、資料5に基づき、平成30事業年度における剰余金の繰越承認について報告があった。

審議事項

1 学内予算によるプロジェクト事業について

平林理事から、資料6に基づき、令和元年度学内予算によるプロジェクト事業について説明があり、審議の結果、承認された。

その他

1 埼玉大学の最新の動向について

山口学長から、資料7 - 1に基づき、英語民間試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」導入の見送りに係る国立大学協会の対応について説明があった後、重原理事から、本学における検討状況及び今後の対応について説明があった。

次いで、山口学長から、資料7 - 2に基づき、国立大学協会から発表された「我が国の教育・研究力強化の推進に関する決議」について、本学の状況を踏まえた説明があった。

2 次回日程（令和2年1月23日（木））

山口学長から、次回日程については、改めて各委員のご都合を伺いたい旨の連絡があった。

以上